

ラーニング・サポーター ♪ 12月のつぶやき

-JWUラーニング・コモンズさくらより-

図書館 2 階 JWU ラーニング・コモンズさくら(以下「さくら」と略)では、学科・専攻推薦を受けたラーニング・サポーター(本学大学院生)が学修相談を受け付けます。学修相談以外にもミニ講座の開催や「さくら」の活動支援をしながら、感じたこと、思ったことを「つぶやき」、本学学生の皆さんに学修相談に訪れてもらいたいと思っています。ラーニング・サポーターは「さくら」で皆さんをお待ちしています!

<12月のつぶやき♪INDEX>

p1 サンタクロース @M.A.(人間発達学専攻(児童学)博士課程後期3年) 12月9日 tweet

つぶやき1♪ サンタクロース

もうすぐ一年が終わる。ここから正月までの期間が一年の中で一番好きだ。これといって何かあるわけではないが、今でもワクワクする季節である。

子どもの時は特にクリスマスが楽しかった。冬休みの始まりと同時に、サンタクロースがやってくる。クリスマスイブの日にプレゼントをサンタが届け、クリスマスの朝に子どもが気づくという、あれである。

サンタを信じていたころは、歳の近い弟と一緒に、おもちゃのカタログの切り抜きを貼りつけてサンタへ手紙を書いたり、おもちゃ屋さんで「サンタさんこれください」とおもちゃに語りかけたりしていた。と同時に、私たちは「サンタさん」という不確かな存在にとっても興味があった。悪く言えば懐疑的、毎年その正体を暴こうとしていた。おもちゃ屋の前で張り込んでいれば分かるとか、手紙にサインを残していってもらおうとか…面倒くさい子どもである。私が親ならさっさとサンタの正体を告げたくなる。母は私たちにサンタの存在を信じたままできてほしかったわけではないと思う、でも頑張っていた。遅くまで起きているぞ、と目を血走らせた私たちが眠るまで辛抱強く待ち、プレゼントを寒いベランダに置いたりして本物っぽい(?)演出を凝らした年もあった気がする。

小学生になってからか、自然とサンタはいないと気づいた。本来ならその頃にサンタ劇場は終わるものなのだろう。でももう一人の、年の離れた弟はその頃「サンタ真っ最中」の年齢で、自分が気づいたからといってこのフィクションを終わらせるわけにはいかなかった。信じさせる側に回ったということである。私も、弟に信じていてほしいと思ったわけではない。けれど、この虚構を壊すのは自分であってはならないというか、何となく親の気持ちがわかった気がした。

そのうち、そのまた下に妹が生まれて、今度は私が妹から欲しいものを聞き出してプレゼントを調達する、というサンタの代行をする年もあった。妹のリクエストの中には、こんな家にあつたら困る…という物もあって、購入する際に私が却下することもあった。大きくなった妹にそのことを話したら「この、偽(にせ)サンタがあつ!」と非難された。いろいろ頑張ったのに…納得がいけない。

**人間生活学研究科 人間発達学専攻
博士課程後期3年(児童学)**

- 経歴
本学 家政学部児童学科 卒業
本学 家政学研究科児童学専攻(修士)卒業
- 資格
保育士/幼稚園教諭/小学校教員
- 研究分野
「向社会的行動(思いやり行動)」について研究
幼稚園や小学校にて参与観察を行い、質的分析を行っています

「教職は両立できるかな」
「卒論のテーマが決まらない」
「発表スライドを見てもらいたい」…
ちょっと誰かに相談したいなというときはありませんか。
皆さんと一緒に考え、答えを出すためのお手伝いをします♪

